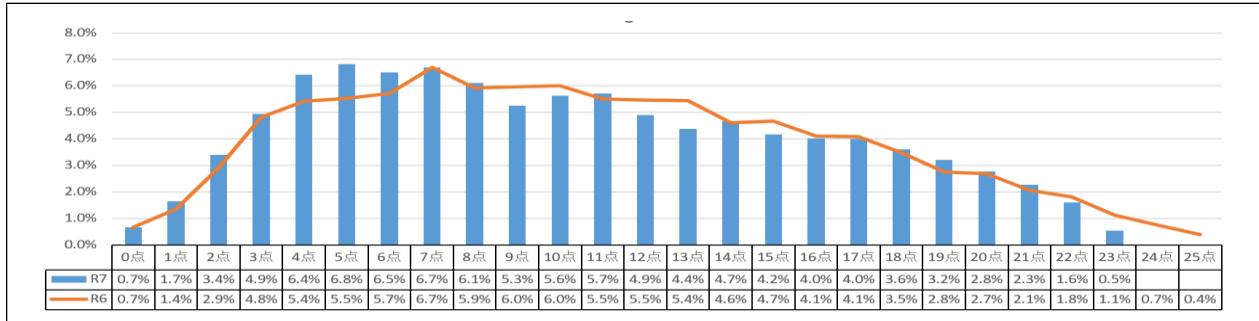


授業改善の手引 中学校第2学年数学

1 調査結果

(1) 分布状況



令和7年度の平均正答率は、45.2%（問題数23問）（令和6年度43.4%（問題数25問））でした。分布の傾向は令和6年度と同様、全体的に平らに広がっており、左側に偏りが見られます。学習定着度のばらつきが大きいことから、生徒一人一人の学習状況に応じた指導の手立てを工夫していく必要があります。

(2) 領域等の正答率

領域等	正答率(%)はR6	観点等	正答率(%)はR6
数と式(8問)	45.6% (43.6%)	知識・技能(17問)	46.6% (52.6%)
図形(5問)	43.0% (30.2%)	思考・判断・表現(6問)	40.9% (29.6%)
関数(6問)	46.6% (51.9%)		
データの活用(4問)	44.7% (50.2%)		

「思考・判断・表現」で、文字式を用いて説明することが改善しつつありますが、一方、「知識・技能」では、関数や相対度数の意味を理解することに課題が見られるなど、課題が継続しています。事実的知識の暗記にとどまらず、個別の知識や技能を関連付け、深い理解を図ることについて指導の充実を今後も重視して、複数の問題を通したり、具体的な活動を通して実感を伴ったりしながら意味や概念を理解できるようにする指導改善が急務です。

(3) 結果概要

ア [数と式] について

●負の符号を含まない文字式の計算は正答率が約5割にとどまりました。授業においても、解答の状況からつまずきを把握し、指導につなげる必要があります。

◇「連続する3つの自然数の和について成り立つ事柄を説明することができる」の正答率は上がっており改善傾向が見られます。

イ [図形] について

○昨年度に比べて改善傾向が見られます。作図の方法を図形の性質や関係に基づいて説明する活動を大切にしてきた成果といえます。

ウ [関数] について

○関数領域の正答率は昨年度にのべて正答率が下がり、課題がありますが、「一次関数の変化の割合を求めることができる」の正答率は61.0%で概ね良好でした。（授業実践アイディア例 参照）

●「グラフの特徴の理解」「グラフが表す式を求める」ことには課題が見られます。

エ [データの活用] について

○「ヒストグラムから判断し、理由を説明する」ことについては、前年度から改善傾向が見られます。今後の改善のポイントとして、数学的表現を用いて簡潔に説明することが挙げられます。（授業実践アイディア例 参照）

●「相対度数」の意味の理解に課題があります。12（1）では「 $50 \div 8$ 」や累積度数と混同している解答が見られました。

(4) 経年比較問題等の状況（○改善、◇改善傾向、●課題が継続、△▼はR5・R6県学調との比較により増減を表す）

通し番号	正答率	比較問題	比較	調査のねらい
●1	48.3%	R6 No.1	△ 0.7	具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることができる。
●3	52.5%	R5 No.3	▼16.0	与えられた文字式で、正しく計算ができる。
●6	29.4%	R6 No.6	▼ 1.7	等式を目的に応じて変形することができる。
◇8	51.8%	R5 No.22	△15.7	2つのヒストグラムを比較し、どちらを選択か判断し、その理由を説明することができる。
○12	61.0%	-	-	1次関数の変化の割合を求めることができる。
●14	39.0%	R6 No.11	▼11.8	グラフが表す式を求めることができる。
◇17	39.3%	R6 No.15	△ 3.3	折り目の線と角の二等分線の関係を理解している。

小問正答グラフ